

# トヨタ(フォレスタヒルズ・モデル林)、ソニー(イーエムシーエス東海テック幸田サイト)、三井住友海上火災保険(駿河台ビル)の“緑”が社会・環境貢献緑地評価システム SEGES(シージェス)で、最高位の認定を取得

～緑地により地球温暖化防止、生物多様性保全等に貢献する 2011 認定企業(サイト)を公表～

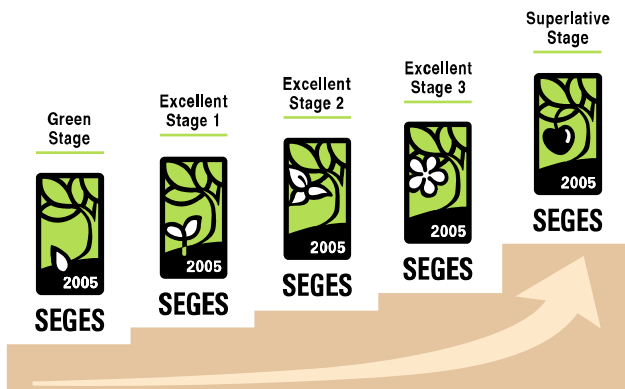
財団法人 都市緑化基金

社会・環境貢献緑地評価システム (SEGES:シージェス) とは、緑をまもり育てる活動を通じて社会や環境に貢献している企業の緑地を対象に、特に優れた取組みを評価・認定するしくみ。SEGESは、政府の第三次環境基本計画、生物多様性国家戦略2010、生物多様性民間参画ガイドライン等に位置づけられています。

財団法人都市緑化基金(東京都文京区 会長 高原慶一郎)は、SEGES の 2011 認定において、地域社会や環境への貢献性が特に高い緑地を良好且つ安定的に管理・保全していることが認められる 3 企業の取組みに対し、SEGES 最高位の Superlative Stage (スプラティブ・ステージ) として認定しました。スプラティブステージは、2005 年より発足した本システムで初めて認定されるものであります。

また、Excellent Stage 3 (エクセレント・ステージ3) には、12 サイト(今回、新たに7サイトの企業が認定)、Excellent Stage 2 に2サイトが更新認定されました。




地球温暖化や生物多様性の危機など地球規模での環境問題が深刻化する中、身近な緑地の価値を高め、積極的に社会や環境に貢献する企業が増えており、SEGES はこれらの取組みを応援しています。



**SEGES 認定ラベル**  
SEGES 審査基準に基づく採点により(30満点:添付「評価の仕組み」を参照)で、Green Stage (グリーン・ステージ)から Excellent Stage 1、2、3(エクセレント・ステージ)の4段階に別れ、貢献度が特に高い Excellent Stage 3の認定後、引き続き6年間継続して認定を受けることで取得できるのが最高位の Superlative Stage。

★ Superlative Stage に認定された 3 サイト

≪貢献度が特に高いとされる Excellent Stage3の認定後、引き続き6年間継続して認定を受けることで取得できる最高位のランク≫

<p><b>三井住友海上火災保険株式会社 駿河台ビル</b> <span style="float:right">東京都千代田区</span></p> <p>建築物緑化の先駆けとして都市部におけるヒートアイランド現象の緩和、良好な景観形成、生態系ネットワーク構築等の貢献を高く評価。屋上菜園(写真左部)は、近隣住民にも開放され、積極的に地域社会とのコミュニケーションに取り組んでいる。</p>	
<p><b>ソニーイーエムシーエス株式会社東海テック 幸田サイト</b> <span style="float:right">愛知県額田郡幸田町</span></p> <p>工場建設時より敷地内の既存緑地を保全し、「ソニーの森」として地域に開放する等、「地域一体型公園工場」の実現に向け着実な取組を評価。更に生物多様性保全の新たな取組みとして「フクロウの棲む森づくり」を、社員の活動により進めている。</p>	
<p><b>トヨタ自動車株式会社 トヨタの森フォレスタヒルズ・モデル林</b> <span style="float:right">愛知県豊田市</span></p> <p>総合的な動植物のエコ・モニタリングの実施や充実した環境教育プログラムを展開する等、里山保全活動のモデルとなる取組みを高く評価。更に地元の市民や行政との連携を強化し、「森を軸とした循環型社会づくり」の実現を目指し取り組んでいる。</p>	

★ 新たに Excellent Stage 3 に認定された 7 サイト

〔既に SEGES 認定を受けており、今回、活動内容が更に充実・発展したことが認められたサイト〕

<b>花王株式会社和歌山工場</b>	<b>和歌山県和歌山市</b>
江戸時代に築造された長大な保安林を継続的に保全し、環境コミュニケーションを重視した新たな取組みを評価	
<b>株式会社金沢村田製作所</b>	<b>石川県白山市</b>
野鳥が飛来する環境整備や県の絶滅危惧種の保全等、緑地を活かした生物多様性への積極的な取組みを評価	
<b>西武鉄道株式会社「飯能・西武の森」</b>	<b>埼玉県飯能市</b>
都市近郊に残された豊かな森を、貴重な環境資源として地域と共に次世代に継承しようとする取組みを評価	
<b>株式会社富山村田製作所</b>	<b>富山県富山市</b>
地域植生を重視した樹種の植栽や緩やかな“せせらぎ”を設ける等、人や生き物に優しい緑地を評価	
<b>出光興産株式会社 千葉製油所・工場及び出光会館</b>	<b>千葉県市原市</b>
長大な緩衝緑地の価値を再認識し、循環型社会や生物多様性を意識した新たな緑地管理への取組みを評価	
<b>立正大学熊谷キャンパス</b>	<b>埼玉県熊谷市</b>
敷地内の既存の雑木林を保全し、周辺環境と調和した「緑豊かな学びの空間」づくりへの取組みを評価	
<b>株式会社グリーン・ワイズ 本社</b>	<b>東京都多摩市</b>
地域生態系保全と緑の効能を体感できる利用機能の両立を目指し、様々な手法による緑の活用の試みを評価	

★ 前回から引き続き Excellent Stage 3 に認定された 5 サイト

<b>アサヒビール株式会社 神奈川工場</b>	<b>神奈川県南足柄市</b>
来園者、地域の市民団体、専門家等との連携によるビオガーデンの運営、ホタル育成等の保全活動を評価	
<b>株式会社岡山村田製作所</b>	<b>岡山県瀬戸内市</b>
ビオトープにおける野鳥観察、希少種の繁殖への取組み等、地域の生態系拠点をめざす活動を評価	
<b>株式会社出雲村田製作所</b>	<b>島根県簸川郡斐川町</b>
約 1000 品種 1100 本の貴重な椿や桜の並木道を一般公開する等、地域に親しまれる取組みを評価	
<b>株式会社福井村田製作所</b>	<b>福井県福井市</b>
緑化を通じ行政機関や自然保護関連団体等との連携や専門家の協力による植生調査等、多様な活動を評価	
<b>サンデンフォレスト</b>	<b>群馬県前橋市</b>
近自然工法で開発された生態系に配慮した緑地で、地域との協働による自然体験・環境教育等の活動を評価	

★ 前回から引き続き Excellent Stage 2 に認定された 2 サイト

<b>株式会社小松村田製作所</b>	<b>石川県小松市</b>
地域に根ざした緑豊かな工場を目指し、外周植栽やバラ園整備等、周辺景観と調和した緑化の取組みを評価	
<b>田辺三菱製薬工場株式会社 足利工場</b>	<b>栃木県足利市</b>
地域の代表的な景観になっているメタセコイアの並木と広場を開放しての夏祭りの開催等の取組みを評価	

問合せ先 財団法人都市緑化基金 SEGES事務局 <http://seges.jp/>  
 東京都文京区関口 1-23-6 電話：03-3235-8065 FAX：03-3235-8067  
[midori-info@urban-green.or.jp](mailto:midori-info@urban-green.or.jp)

# SEGES 社会・環境貢献緑地評価システム 評価の仕組み

Social and Environmental Green Evaluation System

■環境への意識が高まる中、四季の変化を織り成し生活に潤いと安らぎを与えてくれる「緑」は、我々にとって欠くことのできない貴重な財産です。社会と環境のため緑を大切にしている行動の証としてSEGESが誕生しました。

■SEGESは、企業等が緑の保全、創出活動による社会や環境への貢献度を、第三者機関が適正に評価・認証するものです。認定ラベルによって、緑化に取り組む事業者の姿勢と行動を知ることができます。

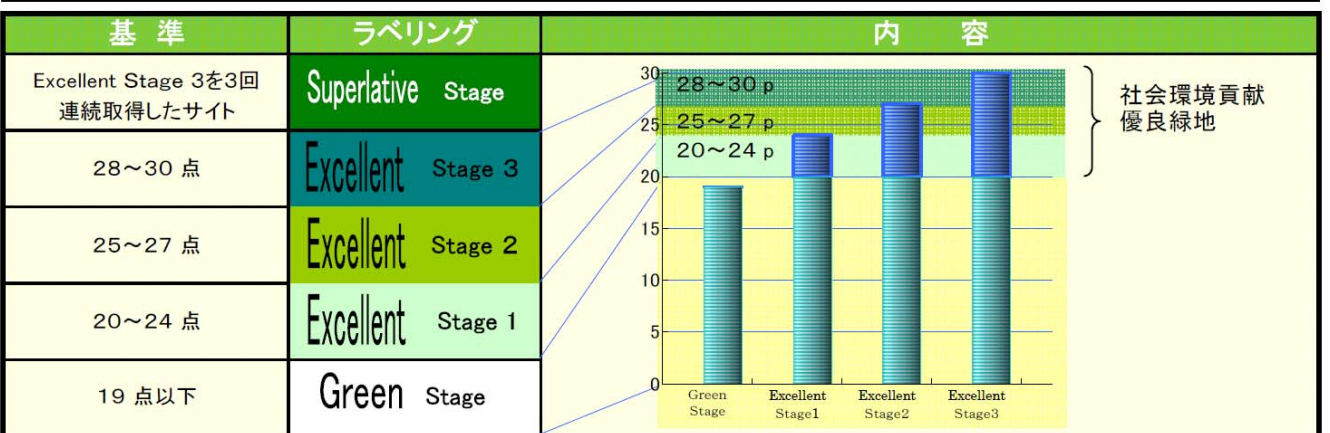


**ロゴマーク**  
大地と樹木は、緑地を良好に守ってきた実績と、これからも持続的に育てていくとする意欲を表しています。

**評価対象** 300㎡以上の規模の緑地で、緑の保全・創出活動に取り組んでいる事業者

## 審査基準 <緑地の社会・環境への貢献度を評価する原理・原則・基準>

<p>右表の項目毎に審査結果を数値化し、ビジョン、トップランナーの点数を合算した30点を総得点とします。</p>	<p>第1原理 土地利用の持続性 (5点)</p>	<p>第1原則：緑地の把握 第2原則：土地利用上の緑地の安定性 第3原則：緑地に関する法令等の遵守</p>	<p>第1基準：対象である緑地の把握 第1基準：土地利用の安定性 第2基準：緑地の担保性の実績 第1基準：関連法令等の遵守</p>
	<p>第2原理 緑地管理 (5点)</p>	<p>第4原則：緑地管理システムの確立</p>	<p>第1基準：緑地管理担当者の明確化 第2基準：緑地管理目標・計画の設定 第3基準：モニタリング計画の設定 第4基準：緑地管理システムの見直し 第5基準：環境マネジメントシステムへの統合 第6基準：管理作業上の環境負荷低減</p>
	<p>第3原理 緑地機能の発揮 (10点)</p>	<p>第5原則：緑地による外部とのコミュニケーション</p>	<p>第1基準：緑地情報の開示 第2基準：緑地の開放 第3基準：地域の緑地保全活動への支援 第4基準：緑地におけるリスク管理 第5基準：専門家の活用 第6基準：緑地管理システムのサイト外への普及</p>
	<p>第3原理 緑地機能の発揮 (10点)</p>	<p>第6原則：存在機能の発揮</p>	<p>第1基準：緩衝機能 第2基準：気象緩和機能 第3基準：地下水涵養機能 第4基準：CO2固定機能</p>
	<p>第3原理 緑地機能の発揮 (10点)</p>	<p>第7原則：連繋機能の発揮</p>	<p>第1基準：景観形成機能 第2基準：地域生態系機能 第3基準：地域防災機能</p>
	<p>第3原理 緑地機能の発揮 (10点)</p>	<p>第8原則：利用機能の発揮</p>	<p>第1基準：レクリエーション機能 第2基準：環境学習機能</p>
	<p>ビジョン</p>	<p>企業の緑地に対する姿勢や考え方を評価 (5点)</p>	
	<p>トップランナー</p>	<p>企業緑化を牽引する先進的な取組みを総合的に評価 (5点)</p>	



### 認定ラベルのデザインについて

■認定された事業者には、ラベルが発行されます。ラベルのデザインは、5段階毎に異なり、種→芽→葉→花→実と成熟することで、緑地の社会・環境貢献の達成度を表します。

